

# 特集

# 強くなる 奈良県の消防力

消防の広域化



奈良県消防広域化協議会総会



奈良県広域消防組合設立調印式の様子

消防は、火災・地震等の災害や事故などから住民の生命や財産を守り、私たちの暮らす地域の安全・安心のために大切な役割を果たしています。

近年、大規模化する災害や高齢化に伴う救急搬送の増加などに的確に対応するため、今年4月から奈良市、生駒市を除く37市町村・11消防本部を「奈良県広域消防組合」として二つに統合し、消防体制の充実・強化を目指します。

消防の広域化で何が変わるのか？

● **災害時の現場力が強化されます。**

消防本部の管轄する区域の人口が90万人と規模が大きくなります。消防本部の組織が大きくなるほど災害への対応力が高まります。

従来の消防体制（今年3月31日まで）

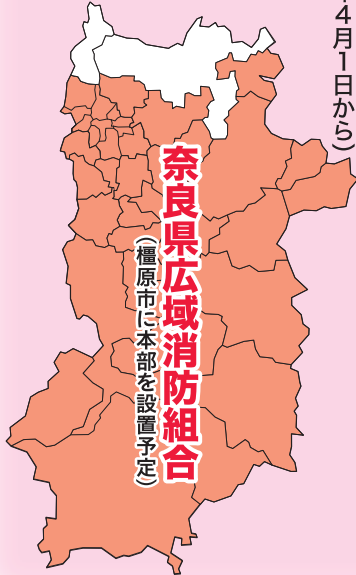
39市町村・13消防本部  
※消防本部名を記載しています。



39市町村・3本部

※管轄区域は、イメージです。従来の消防署や出張所はなくなりません。

**新消防体制**  
(今年4月1日から)



さまざまな災害や事故への対応力を強化します



広域化されれば、管轄区域毎の活動方法が統一化されるので、それに対応するためのチームワーク訓練をしっかりとやっていきたいです。広域化され、素早い現場活動ができることを期待しています。



桜井市消防本部 救急救命士の  
つつみのかずひと  
堤野 一人さん

● さらに平成28年4月からは、

119番通報の受信場所が一つになり、指令命令系統が一元化されるので、現場への到着時間が短縮できます。

119番通報



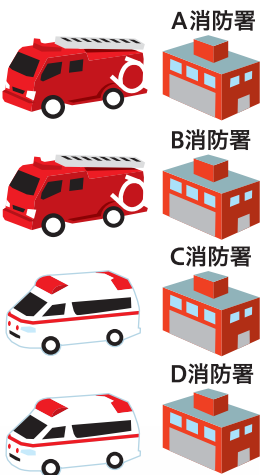
本部内の指令センターにつながり、指令が一元化されます

指令センター



(イメージ)

現場に一番近い消防署からの出動を基本としていきます



現行  
11消防  
本部

広域化の  
スケジュー  
ール

平成  
26年4月  
総務部門  
統合

平成  
28年4月  
通信部門  
統合

平成  
33年  
現場部門  
統合

段階的に広域化を進め、県も支援していきます。

さらに、次頁以降では広域化のメリットを紹介します。

**[特集]**

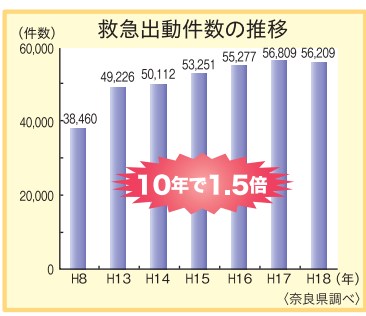
いま、なぜ消防の  
広域化なの？

大規模化する災害や事故等に  
備え、消防体制を充実・強化する  
ために、国は平成18年6月に消防  
を広域化する方針を打ち出しました。

これを受けて県では、平成21年4月に「奈良  
県消防広域化協議会」を設立し、消防の  
広域化について協議を進めてきました。  
そして昨年9月には、広域化に賛同する  
37市町村長が「奈良県広域消防組合」の設  
立に合意し、今年4月に設立となります。

**消防を取り巻く環境は  
変化しています**

- 高齢化に伴う救急搬送件数の増加
- 東南海・南海地震や洪水等大規模災害  
発生の懸念
- 老朽化した消防施設・設備の維持・更新が  
困難
- 消防救急技術の高度化・多様化
- 消防救急無線のデジタル化  
(平成28年5月までに実施)



**住民サービスの向上**

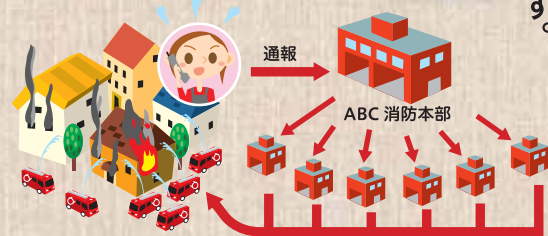


消防の広域化によって  
期待できるメリットは？

消防活動の初動体制が強化されます。



火災が発生した場合、119番通報を受けた消防本部がまず消火活動を行い、火災の規模が大きければ周辺地域の消防本部に応援を要請しますが、出動には遅れが生じます。



本部からの指令が一元化されるため、最初の通報の段階から、必要な規模の出動を早く行うことができます。

現場への到着時間が短縮されます。



管轄以外の消防署は、現場に近くても出動するには要請が必要なため、消防車・救急車の出動には遅れが生じます。



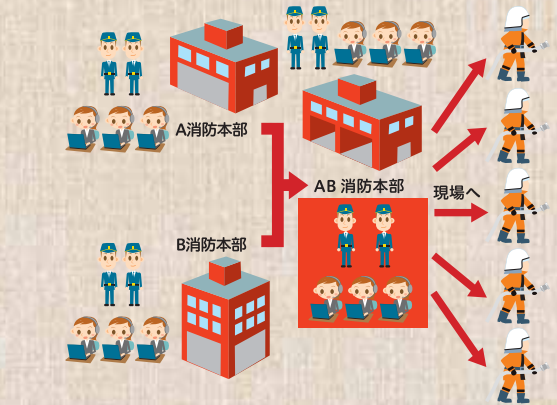
管轄区域の見直し等により、現場から直近の消防署が対応できるため、現場への到着時間を短縮できます。



**人員配備の  
効率化と充実**

救急や火災予防などの専門スタッフを置くことができます。

現場で活動する消防隊員を増強できます。



複数の消防本部を統合すれば、事務的な仕事が効率化されるため、事務部門の職員等を消防隊員として現場で活動させることができます。



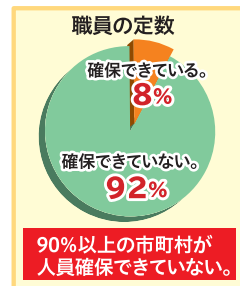
## 現在の奈良県消防が抱える問題とは

○出動要員に余裕がないため、通報が重複した場合、初動対応が十分でない状況です。

○火災原因調査や立入検査等の予防分野における専門要員の養成、確保が困難な状況です。

○組織が小さい消防本部は、人事ローテーションが困難な状況です。

○予算規模の小さい消防本部では、高度な車両や設備の導入が困難な状況です。



県内で一番規模が小さい消防本部では、出動できる人員に限りがあり、同時に多くの火事や事故が起きれば近隣の消防本部へ応援要請している現状です。広域化になり、効果的な対応を期待しています。



葛城市消防本部総務課主任の 熨斗 章宏 さん

## 春の火災予防週間

3月1日～7日

2013年度標語 「消すまでは心の警報ONのまま」

火の取り扱いに対する注意心が緩みがちになる春先は、空気が乾燥し、風の強い日が多いことから火災が発生しやすくなっています。火の取り扱いには注意しましょう！



## 消防体制の基盤の強化

より高いレベルの設備を計画的に整備できます。



「はしご車」  
火災時等、ビルの高層階に取り残された人の救出や、高所からの放水活動などを行います。



「救助工作車」  
救助隊（通称「レスキュー隊」）が使用する消防車両。一般生活上で起こるさまざまな救助に対応できる多くの救助資機材を積み、現場へ急行します。



## 消防通信システムの一元化

小規模な消防本部は、予算規模も大きくありません。単独では、はしご車や救助工作車などの高度な車両の定期的な整備や導入、そして119番通報に素早く対応するための高機能の指令システムの導入等は困難です。

消防本部を統合すれば、予算規模は大きくなり、より高いレベルの設備を整備できるようになります。

11の消防本部単独では、約88億円（平成24年12月時点の試算）がかかりますが、広域化によりシステムを統合するため、その経費は半減が見込まれます。

消防の広域化をすすめる奈良県消防広域化協議会広域消防組合設立準備室室長の 平城 満さん



広域化により、地域の人と消防署とのつながりは変わっていません。広域化の推進は、今ある人的・物的資源をより有効に活用し、住民サービスの向上を目指すものです。

## 知事から

## ひとつこと

奈良モデルの取り組みの一つである奈良県の消防広域化の取り組みが、全国の成功例となり、県民の皆さんが安心して暮らせるよう、県は、全力を挙げてサポートします。

